



和文教科書
徒然草始末
二卷

成
年
十
七
号

共
八

ホ 2
218
2



東京大学

文学部

新刊
218
巻 2

和文教科書二之巻

美濃 源 歌子 編輯

徒然草ぬきほ

寺院の号、こゝぬらうづれ物をも、名をつくること、昔の人ハ、むこも求めむ、なごありのまゝに、やそくつけくるあり。此らハ、ふりく棄てて、をあるは、と、志するやうに、きこゆ、いとむつりし。人の名も、めあれぬ文字をつうんとするハ、益なき事あり。何れも、めづりきことをとめ、異説をこのむハ、浅方の人ハ、かゝるにあり

事ありとぞ。

鯉のあつもの、くひたつは、鬚買そけとあんにかはるも、つらる物あれば、ねどりたる物こそ。鯉はうりこそ、清前まで、きくく物あれば、やんごとなき、巢あれ。鳥よハ、雉、うあき物あり。雉、松茸などハ、法場殿の上にかかりたるも、うりか。む。其外ハ、心うき事あり。中宮の清方の法場殿のうへに、くらみ柵、厨のみえつるを、わら入道殿の清覚、うて、ゆせ給いて、やがて法文まで、かうやりの物とあがり、はなめて法柵をおくさ

●

ぶらひーこと、みちうとむ、はまのきこを、はらへはらぐーき人ぶらひはぬあよこそあどやれたりなり。

●

人の才徳ハ、文あきくかよして、聖の教をきけるを、第一とす。次ハ、まか事、むひとむること、あふくとも、是をあらべ。学問ハ、便あらんためるなり。次ハ、醫術をあらべ。力をやい、人をたもげ、忠孝のつとめも、醫術あらば、あるべし。らむ。次に弓射、馬にのる事、六藝をせり。必これよりかあらべ。文武醫の道、誠よかけて、ある

べうし。是を學んをばいづらある人とい
ふべからむ。次は食人の天ありよく味はひを
調へおれらる人たる徳ともべし。次は細工より
づよ要おかし。げほらの事ども多能、君子の恥
るところなり。詩歌またくまに、桑竹は妙なるは
幽玄の道、君臣はれをにおくもといんども、今の
よみさ、これをもつて、世を治むること、やうやく
おらるあるに似たり。金も、ぐれたれども、餘の
益はほらまじ。ごころごとし。
益益のことをおいて、時をうつしを、愚なる人と

喜

も、僻事する人もいづべし。國の為、君のため、に
やむしをえむして、なむべき事おほし。ごあら
るのいとむ、いくばくあるに、おもわべし。人の力
に、やむしをえむして、いづらむ。第一は食物、
第二はきもの物、第三は居所なり。人間の大事、この
三つより過む。飢む、寒か、む、此れをいふ。これ
して、閑らまむらひを、樂みとも。但人、病あり。
病に、これれぬれば、其愁い、無びがし。醫者、
も、まむべうし。薬を、くはへて、四つの事、求めえ
ざるを、まづし。此、四つかけざるを、とめり。

とび四つのほろをもとめいと多むををどりと
を四つの事、儉約あるが、誰れの人か、たゞむとせ
ん。

⊙

雅房大納言ハ、也かーこく、よき人よて、大將もも
なるさげやと、おぼーく、院の近習ある人、只
今、あさましき事を、えさへりつと、中とれ、れは
何事ぞと、と、おぼせたるひけるよ、雅房ハ、驚かば
んとて、いさたる犬の、芝をきり侍りつと、中が
きのあふより、え侍りつと、中とれ、れは、うとま
ーくにく、たぼーめして、日暮の御氣色も、たが

い、昇進も、志給ハ、どりけり。さ、バ、うりの人、雁鳥をも
たれより、けるハ、思ひど、あれど、犬の芝ハ、跡なき
ことあり。虚言ハ、不便あれども、か、つ、ことをき、つ
せ給いて、い、と、せ給ひける、君の御心ハ、いとた
よと、き事あり。大か、いけるものを、う、い、い、
め、た、か、け、め、あ、そ、び、た、の、い、ん、人、ハ、畜生
残害のた、い、あり。萬の鳥獸、ら、い、と、き、虫、ま、て、し
心を、と、め、て、お、粘、を、みるに、子を、た、い、親、を、な、つ
か、ー、く、夫婦、を、と、ま、い、ね、し、み、い、ら、め、欲、お、ほ
い、か、を、愛、し、余、を、憎、める、こと、いと、へ、し、思、癡、ある

故に人よりたまきりて甚し。かれもくろくを
あつへ命をうばはんこといひてういひま
らざらん。もづて一切の有情をえて慈心
うらん。人倫ある也。

皇

顔田ハ志人ノ勞をほどこそとあり。もづて人
をくろく。物を共へる事。いやくき民の志
をもうばあべか。又いとまきあき子をす
おどいひはづ。めで興ぶる事あり。おど
しき人のまことなるねが。こももあし思
どをさあき心も。めにまみておそろく。はづ

うくあまき思ひまこと切なる。こ
れをあやまて。興ぶる事。慈心の心にあ
とましき人のよろこび。いひたり。かき
おも皆虚妄なれども。誰れも実者の相
あきせむ。勇をやるより。心をいた
そこある事。あかき。病をうくること
心よりうく。外よりある病。もく
みて汗をあびるより。あき事あれども
且恥らあきることあれ。必だ汗を
心のきり。あき事。あき事。あき事。

額をかきて、白頭の人とあり。なめ。たうまにあ
らば。

皇

物ふあ。そほむ。おのれをまげて、人よきことばひ
我力をのらうして、人を先よするよ。い。さ。り。む。よ。
る。づ。れ。遊。び。も。も。勝。負。を。の。む。人。の。勝。て。興。あ。
ん。た。め。な。あ。お。の。れ。が。最。の。ま。ま。り。た。る。こ。と。を。よ。
ろ。こ。ぶ。ご。れ。が。ま。け。て。興。あ。く。お。ほ。ゆ。べ。き。事。又。志。
ら。れ。り。我。ま。け。て。人。を。よ。ろ。こ。ぶ。め。ん。と。思。は。
ば。さ。ら。に。あ。そ。び。の。興。あ。る。づ。い。人。よ。ほ。い。ま。く。
た。も。は。せ。て。さ。ら。づ。心。を。あ。ぐ。と。め。ん。事。徳。を。さ。む。け。

り。び。つ。ま。い。き。中。に。な。ほ。う。く。も。人。を。ほ。め。り。あ。
か。ひ。き。て。お。の。れ。が。智。の。ま。ま。り。た。る。事。を。興。あ。す。
是。又。礼。も。あ。り。む。ご。れ。が。ほ。め。興。宴。より。お。こ。り。
て。な。づ。き。恨。み。を。む。も。ぶ。た。ら。い。た。ほ。い。是。皆。あ。り。
そ。い。を。こ。の。む。失。る。ゆ。人。よ。か。い。ん。こ。と。を。思。は。ば。
只。学。同。し。て。其。智。を。人。よ。ま。ま。ら。ん。と。た。も。あ。べ。し。
道。を。ま。ま。ら。ぶ。と。あ。り。が。善。よ。ほ。こ。う。い。む。と。も。か。う。よ。
あ。い。き。よ。べ。か。ら。び。と。り。あ。こ。と。を。さ。し。る。づ。き。由。あ。
る。り。大。ま。る。職。を。も。辞。し。利。を。も。さ。つ。る。は。只。学。同。
の。ち。か。ら。る。り。

皇

まづーきもの、射をもらて礼と、老いたる者
ハカをもつて礼とを。あのうぶんをきりて、およ
ばざる時ハ速にやむを智といふべし。ゆゑを
らんハ人のあやまりなり。かをきつゝまづーして、ま
てはげむハ、たのれがあやよりありまづーして、
かをきつゝまづーして、盗みぞかゝりて、かをき
らざれば病をうく。

皇

くもーあつ志げ、故法皇の御前よ、とよみい、供
侍のまわりをうよ、今まあを侍り、供侍の色を
文字も、功徳も、たゞよ下をりて、そゝに中侍らば

皇

本草に、御覽トあはせられ侍化かーいよつと、
あやまり侍らと、りける時、も、六条故内府ま
あり給ひて、有房ついでよものあり侍らんと
て、先志ほといふ文字ハ、いづれの篇も、侍ら
と、どばれたりけるに、去篇よいと、りたりければ、
老のほどを、いあらとれきたり。今ハ、さばり
よていへ、ゆゑーきとろるゝと、りたりけるに、
とよみよるりて、まのうけり。

花ハさかりに、月ハくまなきそのと、みる物ら
雨よびういて、月をこい、たれこめて、春のゆくへ

まゝぬもたほあはれは情あり。さきぬべきは
どの本末ぢりまをれたる庭をぞこそみどり
にほくれ。歌のことばかきも花見にまうれり
くらに、はやくちりまをいづれがともさける事
ありて、まかしてまどもかふる。花をみてとい
つらに、おとれることさ。花のちり、月れうさぶ
くをまゝふあしひ。さることなれど、さしふ
たくな。人ぞ、けえぶ、彼えぶ。ちりまを、今う
みごころりま。まどま。いふめる。萬のことも、始終
こそおうけれ。男女の情も、いさへはさきみるを

はつお物ら。あはげでやみま。うさを思ひ、あど
ある契を、かこら。あづき夜を、いとわあ。う。とほ
き雲居を、たむいやり。あそぶ。宿よ、むし。を思
ぶ。こそ、色このむ。いと。いはめ。望月のらま。あきを
ふ里の外で、あがめ。さし。やりも、曉。ちう。く。なり
て、も。ら。い。で。た。ま。い。と。心。あ。う。う。あ。を。み。う。や
う。にて、あ。う。き。山。れ。杉。の。こ。も。あ。に。み。え。う。この
ま。のか。げ。お。志。ぐ。れ。た。る。む。し。雲。か。ら。れ。の。ほ。ど。又
なく。表。なり。推。榮。ま。う。が。う。な。ど。の。ぬ。れ。た。る。や。う
ある。葉。の。う。へ。ま。さ。う。め。き。た。る。こ。も。男。に。ま。う。て、

心あらん友もうふと、都くはうらたほゆれどべ
て、月花をば、このそめまでみるものうき。春の家
を立ても、月のおよ、ねやのうらたうらうも、た
もんふくそいとたのもうおうくく。あきん
ハいとくよまけふ、まにもみえげ。奥むるこも
も、ちほざりさめ。かへるあうれ人こそ、色こくよ
るづハもて、奥むれ。花のもともあ、ねぢうよめ、立よ
り、あううめもせむ、まもりて、酒のみ、連哥して、は
てハ、おほきたうこそ、心なくをちとりぬ。泉よハ、
よきこい、いたうて、雪よハ、おとたちて、立つけを

ど、よろづの物、うそあうら、みることとま、やう
のふれ、糸み、うら、いとめづ、うら、き、み、ごと
いとねそ、うら、ほどハ、棧敷、不用、ちとて、おく、な
るやうて、さけの、物、くひ、圍碁、双六、など、あそび
て、棧敷、よき、人、をおきたれ、ハ、うら、ちと、ま、ふ、ふ、と
いつ、あ、お、の、う、き、も、つ、あ、う、や、う、に、あ、う、そ、い
は、う、りの、ほ、り、て、お、ち、ぬ、べ、き、ま、で、も、屋、け、り、い、で、
お、う、あ、い、つ、一、事、も、み、も、う、と、ま、も、り、て、と
あり、か、り、と、物、ご、と、い、い、て、う、ら、り、す、ぎ、ぬ、れ
ハ、又、う、う、ん、ま、で、と、い、い、て、お、り、ぬ、た、ハ、物、を、の

みんとともになるべし。都の人れ申へげある
い、おぼりていとみぢき。さうくをきく。さうい、言
づうへまたらおんれうーるに、さうさうあささま
あーくも、およびか、らむ。わさあくみんとともに
人もふーなまなく、奏かけさうーて、さうめい
ーきに、明はるれぬほど、まのびてよまらる車ども
のゆーきを、それう、かれうなど、おまひよまら
ば、牛飼、下部など、か、え、き、れ、る、も、あ、め、お、う、ー、く、も、
き、ー、く、も、さ、う、さ、う、に、ゆ、き、か、あ、み、る、も、つ、れ、ぐ、
あ、う、に、く、う、ほ、ど、ふ、い、た、て、さ、う、べ、つ、る、車、ども、

あなく、あみおつる人も、いづかへ、行くん。
ほどなく、それよあめて、車どもの、らうが、ほーさ
も、もみぬれ、ば、す、だ、れ、さ、う、み、も、さ、り、ほ、う、い、ぬ、れ、
まへ、ま、さ、び、ー、げ、ま、な、り、ゆ、く、こ、ま、の、た、め、ー、も、
思、い、ま、う、れ、て、あ、げ、れ、る、ま、大、路、み、く、る、こ、ま、お、み
た、う、ま、て、あ、れ、ま、の、棧、敷、の、あ、を、こ、う、ら、ゆ、き、か
ふ、人、の、み、ま、れ、る、ま、あ、ま、あ、ま、て、ま、り、ぬ、ま、の
人、数、も、ま、の、ま、お、ほ、う、ぬ、ま、ま、け、人、み、あ、う
せ、ま、ん、の、ら、我、れ、ぬ、ま、ま、ま、ま、ま、り、たり、ま、も、
ほ、ど、ま、く、ま、ら、つ、け、ぬ、べ、ー、お、ほ、ま、ま、ら、う、つ、は、も

のゝ水をつれて、ほそき穴をあけたら、まじり
たることをくまーとつゝも、おこたつるまじり
も、ゆゑ、おつてつきぬべー。都の中に、おほき
人、おまじり、おは、あゝ、べー。一日に、一人二人
のみ、あゝ、んや、鳥部野、船、お、ぬ、野ら、ま、た、く
らゝ、お、ほ、ら、お、は、あ、れ、ど、お、ら、ぬ、お、ま、あ、
され、バ、いつ、きを、い、さ、ぐ、もの、つ、ら、め、て、う、ち、お、く
ほど、あ、ー、わ、い、き、ま、も、よ、ら、ぬ、つ、よ、き、ま、も、よ、ら、ぬ、
た、も、い、か、ら、ぬ、お、死、期、を、め、く、あ、ま、で、の、が、れ、ま、ふ
け、る、お、あ、り、が、ら、き、不、思、議、を、り、お、づ、ば、ー、も、お、ま、を、の

ど、い、い、思、い、ま、ん、や、ま、い、こ、だ、て、と、い、ふ、もの、を、
双、六、の、石、を、て、つ、ら、め、て、た、て、あ、ら、へ、た、る、程、は、と
ら、れ、ん、こ、と、い、づ、れ、の、い、ー、と、も、お、つ、ね、ど、も、か、ぞ
へ、あ、て、い、い、つ、を、と、め、ぬ、れ、が、その、ほ、ら、い、の、お
れ、ぬ、と、み、れ、ど、又、く、ら、を、あ、れ、が、か、れ、れ、れ、ま、あ、ま、
ゆ、く、ほ、ら、い、づ、れ、もの、が、れ、ら、る、に、似、や、あ、兵、の、
い、く、さ、ま、い、づ、る、お、死、ま、ら、う、き、こ、と、を、お、つ、り、て、家
を、も、ら、い、れ、お、ま、を、も、わ、ら、る、お、ま、を、お、ま、ひ、ら、る、草、の、庵
ま、ハ、静、ら、い、水、石、を、も、て、あ、ま、ひ、て、お、れ、を、よ、そ、に
き、く、と、思、へ、ら、る、い、と、ほ、ら、ま、ー、お、づ、ら、あ、ら、ふ、お、の

おく、無常のかさききほひきたるごとくんや。其死
よのぞめる事、いづきの陣よ、むくめるにおれし。
力死して、賤めつことも、智者のせざるごとくらふ
里。よかぬもの、たくはへおきつるもつたなく
よきもの、心まをめぐんとはうな。ごらなく
おほうらふ、まいて口を。我こそえめなと、いふも
のどもありて、泣よあゝそひたる、さるあ。のち
ハ、たれもと、心づきものあらば、いけらんうらよ
ぞ、ゆづるべき。朝夕なくて、かまはざらんものこ
そあゝめ、さほらハ、何もそたでぞあゝまほしき。

死しを、死にと
いふ。死よ
も、死ぬのをも
らけるこそ、奈行
ま格のなごら
まなり。死し
と、いふ時、時と
して、殺す意よ
をらうとある
あり。

塵

心なるとみゆるものも、よき一言いふものあり。
あゝあゝえひもの、おそろいげなるが、かこへよ
あいて、清子ハ、おほもやと、さびしに、いとわも、も
ち侍らむと、こたへし。うらとてハ、物のあはれハ、
おちたまはし。情なき清心も、ごもの、たまはし
んと、いとおそろい。子ゆゑよ、こそ、よろづのあは
れハ、思ひおほられと、いいたり。ごもありぬべ
き、よまめ。恩愛の道なうでハ、か、こもの、心に
慈然ありんや。孝養の心をきものも、子もちて
こそ、親の志ハ、おほいし。つらまら。母をきてたる人

のよろづよ、むらすみなるを、たぐてほごうに
かるいと、のよろづにへつゝい、のぞみふらきを
みて、無下にたむいらくも、いづことあり。そ
の心、よなりて思へば、まこと、いふありか
やのため、妻子のため、恥をもり、たぬも
も、まつべきことあり。されば、盗人をいま、め
いづことを、せむ、つみせんより、その人、れ
さむ、うぬやうに、世を、おこ、あは、る、ほ
り。人、た、ねの、産、ま、し、時、つ、ま、の、心、あ、り、人、ま、は、ま
り、て、め、も、す。世、を、ま、ま、う、げ、て、凍、餓、の、う、

み、あ、ら、う、の、老、を、申、べ、か、ら、ぬ、人、を、く、る、め
法、を、ま、ま、う、め、て、そ、れ、を、つ、み、る、は、ん、事、不、便、の
ま、ご、あ、り、さ、て、い、う、べ、い、て、人、を、め、ら、む、べ、き、と、あ
ら、ま、し、の、を、ご、り、つ、い、や、も、不、ま、や、め、民、を、ま、ご、農
を、ま、め、ば、下、に、利、あ、ん、と、う、い、か、い、あ、る、べ
か、ら、ぬ、衣、食、よ、の、つ、ひ、あ、る、う、へ、は、僻、事、せん、人、を
ま、ま、こ、の、盗、人、と、い、ふ、べ、き。

人の終焉のありさまの、いみじかり、事など、人
のから、る、を、き、く、に、た、ま、ま、つ、ま、う、て、み、た、れ、む
とい、は、れ、心、よ、ら、う、る、べ、き、を、た、ら、う、る、人、に、あ

やしこくことある相を、かぎりつけいひーことば
も、ふるまいも、だのれぞこのむかへに、ほめあるを
こそぞ、人の日ごろ此本意まもあつげやと、おぼ
ゆれ此大事ハ、権化の人も、さぶむべうらび。博學
の士も、はるるべからむ。だのれ、たふと、ころあ
くバ、人の見聞ま、よろづべうらび。

①

強をつぐんと、もろ人よくせざらん。強ハ、ふま
いみ、人にまうれど、うらうらよくあついで、そ
一出た、らんこそ、いと心よ、くうらめと、つねい
ふめれど、かくいふ人、一氣もあつひうることな

いも、堅固か、ほあるより、よまの中、いま
りて、そ、まわらば、はるまも、ほらむ、つれなくを
ぎて、た、まむ人、天性、其骨あ、れども、みちにな
づまじ、みじりにせむ、て、年をおら、れバ、堪強の、
た、なむ、や、よ、りハ、つ、い、ま、よ、ま、の、位、い、つ、り、
徳、な、け、人、の、ゆ、え、を、い、て、あ、つ、び、あ、き、を、得、る、事
也。天下の物、れよ、ま、と、い、く、ども、始、め、ハ、不、堪、の、間
え、も、あ、り、ま、下、の、振、撞、も、あ、り、こ、れ、ども、其、人、み
ち、れ、お、き、て、た、ぐ、く、を、を、た、も、く、て、放、埒、せ、さ
れ、バ、世、の、は、う、せ、ま、て、万、人、の、師、と、あ、る、こ、と、決、ま

かほらべうらび。

嘉

此人とい大納言
為兼入道をよ。

け人東寺の門に、雨やどりせしれたりくるに、か
たはものどももの、あつまりあはらむが、まもも、ね
ちゆらみ、うちかへりて、いづくも、よぐにこそや
うあるをみて、とりぐにたぐいさきくせものな
り。を愛もつにたれりと思ひて、まもりたふしけ
るほどよ、やうて、そ興つきて、みよく、いぶせく、
たほええれば、たぐいさきほふ、めづりか、ぬも
のよ、ま、うらびと思ひて、かへりてのち、この間、う
あまをこのみて、ことやうに、曲折あるをもとめ

て、目をよららば、すめつるか、かのうら、はものを、
愛するなりとめと、興あくるわらえ、これ、鉢より
あつれくるまども、みまほりもて、たれま、め。こ
もありぬべきことなり。

星

そにま、うら、はん人、先づ、機嫌をさるべう。ついで、
あ、き事、人の身も、さうい、心も、たぐい
て、其事、まら、び、やうの、ま、り、あ、を、こ、ろ、う、べ
き也。但、一病、を、う、け、子、う、み、死、め、る、事、の、も、機、嫌、を
け、う、ら、ん、つ、い、で、あ、う、さ、て、や、む、こ、と、ま、あ、一、生、住、異
滅、の、う、た、り、か、は、ら、ま、こ、と、の、大、事、は、た、ま、き、川、の、

みまぎりのちがひをいふことごとくもていふは
は。たゞらにたゞあひゆくものなり。されば真俗
よつけて必はるると思はんことハ、機嫌
をいふべし。とかくのよういふく、是をいふ
と、むまどきあり。春くれてのち、夏になら、なは
て、秋のくるまのあはれ。春、やがて夏のみきを
もよほし、なるまむで、秋、かよひ、秋、もあは
れ、むくするや、十月ハ、小春の天臺、草もあそくあ
り、梅もつぼむぬ、木葉のたつるも、先づおらて、あ
ぐむまのあはれ。下よつきや、つげるに、たへは

して、たつるなり。びりある氣、下にまうけたるぬま、
ふらとついで、甚はや。生老病死のうつりき
たる事、又是よ過より、四季ハ、なるまむまれつ
いであり。死期ハ、ついでをまはれ。死ハ、あより、
もきたらむ。かひて、うらにせむれり。人ハ、死
あることをいふて、まつこと、まつも急あ、やう
に、たほえど、てまら。沖のひか、はるるあれど
も、磯より、潮のみほるるごと。

● 草をとれば物か、ハ、樂をよれば、音をたてん
と思ふ。益をとれば、酒をおもひ、さいをとれば、攤

うたんことをたもめ。心さ、必ず事にゆれてきた
る。かりとも、不善のたはげれを、あまをべううじ。あ
ううとて、聖教の一句を、何となく、前後
力文も見ゆ。率ふよて、多平此非を、あうたむる
こともあり。かりにい、此文を、いるげやうま
あ、け事を、さうんや。これ、則ち、あうあ、の益を
り。心さ、よおこうじ、佛ありありて、むべを
と、け、徑を、と、おこしたる。うちよ、善業、あ、のづ
か、併せ、れ、散乱の心、あ、うも、繩床、よ、せ、バ、
おぼえ、じ、て、禪定、あ、る、べ、事理、も、よ、り、二つ

あ、ど。外相、ゆ、を、む、ら、づ、れ、バ、内證、必、熟、も、ま、い
て、不信、と、い、ふ、べ、か、げ、あ、あ、さ、て、これ、を、た、ふ、せ
む、べ、

⑤ 其の人、あひあ、時、さ、げ、く、も、黙、止、も、る、こと、あ
し。必、と、ば、あり。い、こと、さ、き、い、た、は、ほ、く、ハ、無、益、の
談、あり。世間、の、浮、説、人、の、是、能、自、他、の、た、め、に、失、た
ほ、く、得、も、く、あ、い、れ、を、か、る、時、た、げ、ひ、の、心、
無、益、の、事、あり、と、い、ふ、こと、さ、う、じ、

⑥ 一道、に、た、つ、さ、け、る、人、あ、う、ぬ、道、の、け、り、に、の、ぞ
みて、あ、は、れ、さ、う、道、あ、う、ま、か、ぞ、か、く、う、そ、に、み

侍らばものをといい、心も思ふこと、つひのこ
とあれど、よにまらなくおぼゆるなり。さうぬみら
の、うやましくおぼえ、あふうやま。なご
ら、あはざりんと、いいてありあん。我智をと
り出て、人又あふそふ、つのあるもの、つのを
かぶけ、牙あるもの、きばをかみ、だをたぐ
ひるり。人ごと、善ほらうじ。物とあふ、は
ざるを、徳とも。他また、このある、大なる
失るり。品のため、さうても、おぼゆるを、た
ても、先祖のほまれ、うても、人また、さうりと思へ

ふ人、たとい、ことばよいで、こそ、いほひども
内心に、そこばくの、と、あふ、つ、み、て、これ
ら、さうべ、を、こよ、み、え、人、も、い、け、れ、と
ご、は、い、を、も、ま、ね、く、た、は、は、慢、心、の、一、道、も、
ま、こと、に、長、く、め、る、人、み、づ、う、あ、き、か、其、
非、を、さ、う、ゆ、え、と、さ、う、ざ、う、つ、ひ、に、み、た、ご、て、
つ、ひ、と、物、に、ほ、こ、る、こと、あ、い。

年、老、いた、る、人、も、一、事、に、ま、が、れ、た、ら、お、の、あ、り、て、
こ、の、人、れ、の、ら、う、は、誰、も、と、は、ん、な、ど、い、は、う、
ハ、老、れ、か、う、ど、う、て、い、け、る、も、づ、う、さ、う、じ。

と、いあれど、それも、なれたる、雨の、なき、一、生、
この、事、ま、て、くれ、よ、け、り、と、ほ、こ、る、く、み、ゆ、今、い、わ
ま、れ、よ、け、り、と、い、い、て、あ、り、ま、ん、大、か、さ、い、ま、り、た
り、と、も、さ、ら、に、い、い、ち、う、ま、い、さ、げ、う、め、の、ま、
ハ、あ、ぬ、う、や、と、き、こ、え、お、の、づ、う、う、あ、や、ま、り、も
考、め、べ、い、さ、だ、か、も、も、わ、き、ま、つ、ま、い、ま、い、
た、ら、ハ、程、ま、と、い、み、ち、の、あ、る、と、も、お、ぼ、え、ぬ
べ、い、ま、い、て、ま、い、ぬ、事、ま、り、に、お、ま、り、
も、ど、き、ぬ、べ、く、も、あ、ぬ、人、の、い、い、き、う、ま、る、を、さ
も、あ、い、ど、と、思、い、ま、る、が、同、ま、る、い、と、ま、い、い、

星

さ、い、た、る、事、ま、り、て、人、の、が、り、ゆ、く、ハ、よ、か、ら、ぬ、こ
と、ま、り、用、あ、り、て、終、り、と、も、い、ま、こ、と、は、て、ま、い、と
く、か、つ、る、べ、い、さ、い、く、あ、ら、い、と、む、つ、ら、い、人、と
む、ら、い、れ、バ、こ、と、は、お、ほ、く、み、も、ら、い、び、れ、心、も
静、う、ま、ら、い、萬、の、こ、と、さ、け、り、て、時、を、う、た、ま、た、が
ひ、の、た、め、益、ま、り、い、と、は、い、げ、ま、い、ま、ん、も、ま、り、
心、づ、き、ま、き、こ、と、あ、い、ん、ま、め、ハ、中、い、ま、い、ま、い、
い、い、て、ん、た、あ、い、心、に、む、い、は、ま、ほ、い、く、思、は、ん、人
の、つ、れ、ぐ、ま、て、い、ま、い、ま、い、げ、い、ハ、心、ま、い、づ、ら、い、ま
ど、い、ま、ん、ハ、い、の、か、ぎ、り、ま、い、あ、い、ま、い、づ、ら、い、
阮、籍

が、青き眼、誰もあるべきことあり。其こと、あき
に、人のまかりて、のどろに物語して、海りぬら、いと
よ。又文も、久しく聞え、せむいば、なとば、ありい
いおこせ、ら、いとうれし。

星

貝をたほゆ人の、我まへなるを、たきて、よそを
み、うして、人の袖のうげ、いごの下まで、めさく
ば、うまた、前なるを、づ、人よ、おほ、それぬ、よく、たほ
ふ、人、か、よ、そ、まで、とり、なく、と、る、と、か、み、え、び、て、
ち、う、き、げ、う、り、お、ほ、よ、や、う、な、れ、ぞ、た、ほ、く、お、ほ、あ
る、り、甚、盤、の、も、み、よ、い、を、た、て、は、ど、く、に、む、ら、

い、る、る、石、を、ま、ゆ、り、て、は、げ、く、か、あ、ら、う、む、ら、う、て
も、と、を、よ、く、み、て、こ、う、なる、ひ、どり、め、を、む、ぐ、に、は
ど、け、ば、た、て、う、る、い、し、必、あ、る、る、業、外、事、外、は、む、さ
て、お、む、べ、う、う、び、只、こ、も、と、を、た、づ、く、を、べ、い、
清、献、さ、ら、う、こと、ば、よ、好、事、を、終、ぶ、て、前、程、を、と、お、こ
と、な、う、れ、せ、い、へ、り、世、を、た、も、う、ん、み、ら、も、か、く、や
侍、う、し、う、ち、を、つ、し、ま、む、か、ら、く、ほ、き、ま、う、に
して、み、だ、り、な、れ、が、遠、國、か、ま、う、び、を、む、く、時、は、ど
め、て、ほ、う、り、こ、と、を、も、と、む、風、よ、あ、ら、り、濕、よ、み、し
て、病、を、神、靈、に、う、い、あ、る、か、お、ら、う、なる、人、を、め、と、

醫書にいへるがごとし。目のよへる人の愁を
やめ、惠をほごし、道をたゞしくせば、其化をほ
くちあぐれんことを、まじしるなり。禹のゆきて、三
苗を征せしむ、いんをさかへて、徳をまくらむを
まじしるなり。

⑤

わらきとまの血氣がらにあまり心、ものいご
きて、情欲おほし。力をあやぶめて、くづけやまき
こと、珠をほりしるに似たり。美麗をこのみ
て、寤をつひやし、是をまて、言のたもとにやっ
れいせしむる心、さかりに、物とあはれし心、心
と

うらやみ、このむ所、まじしるまじしる。色にまけ
り、情よめで、外をいさぎよくして、百年の力をあ
やまり、命をうしなふため、死はくして、力
のまじしるいさし、かゝん事を、思はむ。まじしるか
うま、くまひきて、まじしる世が、りともあつ。力
をあやまらうこと、まじしるまじしるのまじしるなり。老
ぬる人の精神、おとろへあはくおろそかにして、
感、どうごくおまじしる。心、あつ、静、あつ、まじしる
蓋のまじしるまじしる。力をたぎけて、愁なく、人のわ
づらひ、あつ、んことをおまじしる。老て、智のわづら

ときよ、まゝに、事、いつて、かゝる、此、考、る、に、ま、さ、ら、る、が、ごと、し。

●

小野小町が事、きはめて、さ、う、あ、ら、う、び、お、と、ろ、へ、た、る、と、ま、い、玉、造、と、い、ふ、文、に、み、え、を、た、り、け、文、清、の、が、か、け、あ、と、い、ふ、説、あ、れ、ど、さ、う、即、大、師、の、ほ、他、の、目、録、よ、い、け、り、大、師、の、義、和、の、ほ、め、よ、か、ら、れ、た、ま、つ、り、小、町、が、さ、か、り、あ、る、こ、と、を、の、ち、に、い、ふ、こ、と、も、あ、ら、う、ほ、つ、つ、な、り。

●

小鷹によき、犬、大、に、う、に、つ、ら、い、ぬ、れ、が、小、鷹、に、わ、ら、く、な、る、と、い、ふ、大、よ、つ、き、小、を、ま、つ、る、こ、と、も、い、ふ、り、

ま、こ、と、い、ふ、こ、の、あ、り、人、事、お、ほ、る、中、に、道、を、た、の、し、む、り、氣、味、ふ、ら、き、い、ふ、り、是、の、大、事、を、り、た、び、道、を、聞、て、こ、れ、よ、う、ら、い、と、い、ふ、人、づ、れ、の、わ、ら、い、と、い、ふ、れ、ど、い、ふ、事、を、い、ふ、と、あ、ま、ん、た、ら、う、あ、る、人、と、い、ふ、と、も、か、こ、き、犬、の、こ、い、ら、ま、ね、と、い、ふ、也。

●

世、よ、い、心、を、ぬ、こ、の、お、ほ、き、あ、り、と、も、あ、る、こ、と、に、い、ま、づ、酒、を、ま、め、て、ま、い、の、ま、せ、た、る、を、酒、と、い、ふ、こ、と、い、う、ら、う、ゆ、あ、ら、い、と、い、ふ、心、を、ぬ、の、む、人、の、か、ほ、い、と、た、へ、が、い、げ、い、眉、を、い、そ、め、人、め、を、け、う、ら、い、

て、もてんとしにげんとするを、とつていきと
どめて、ずらにのませつれづらるは、き人も
たぢふらに狂人とありて、をこがましく、息災を
る人も、めのまへに、大事の病者とありて、あはも
あつど、たふれあき、いほつぎ、いほまど、あま
ーかりぬべー。あつるゑとで、頭いしく、物くは
によびふー、生をこつて、たつやうに、て、暗日の
こと、おほえび。おほやけ、いふー、大事を、き
て、まづ、いとあつ、人き、て、かゝるめを、みさ
こと、慈れも、なく、礼義も、そ、むらめ、かゝら

きめ、あひた、人、ねた、く、口を、と、おほ、は、ど
らんや、人の國に、かゝる、あつ、いある、なりと、これ
らに、あき、人事、まで、つ、つ、き、た、い、あ、や、く、
ふー、ぎ、におほ、えぬ、べー、人の上、まで、み、つ、る、だ、ま
心、うー、思、い、入、た、る、さ、ま、に、い、よ、く、と、み、い、人、も、
た、も、あ、お、ま、く、ま、い、ひ、の、ま、り、こ、と、ば、お、ほ、く、あ、
ぼ、うー、ゆ、う、い、も、は、づー、は、ぎ、た、ふ、く、か、げ、て、
よう、い、あ、き、け、き、目、ご、ろ、の、人、と、も、お、ほ、え、び、女
い、いた、ひ、が、い、は、れ、ら、か、ま、あ、き、や、あ、ま、げ、ゆ、う、
び、か、ほ、う、ら、う、げ、て、お、ら、う、い、あ、も、て、る、よ、い、と

りつきよかぬ人のさうなとりて、くらにさ
あてみづうも、くひうらさまあ、おれかざり
出して、各うたひまい、年老い、うら法師、め、出さ
れて、くろくき、たなき、力を、か、ぬぎて、目もあて
られ、むすぢり、うらを、與、ド、みる、人、さ、う、と、ま、
く、ま、う、。ある、は、ま、い、ま、う、り、か、い、み、ど、き、事、ども、か
た、は、う、い、た、く、い、ひ、き、を、ある、は、酸、な、き、う、下、さ
ま、の、人、の、り、あ、い、い、さ、か、ひ、て、あ、さ、ま、く、お、そ
ろ、り、恥、ぶ、ま、く、心、う、き、事、の、と、あり、て、け、て、い、ゆ
ら、ぬ、物、ども、お、り、て、椽、より、お、ら、馬、車、より

おちて、あやまらう、つ。物よものらぬきは、く、大、治
を、う、ら、ぼ、い、ゆ、きて、つ、い、い、ぢ、の、下、な、ど、に、む、き
て、え、も、つ、は、ぬ、事、ども、ち、ち、ら、う、う、年、老、い、け、さ、か
け、う、ら、法師、の、小、童、れ、か、を、お、さ、へ、て、向、え、ぬ、こ
と、も、い、い、つ、う、ら、め、き、た、ら、い、と、う、は、ゆ、い、か
ら、う、こ、と、を、う、て、も、け、せ、も、後、の、世、も、益、あ、る、づ、き
と、ま、あ、い、う、づ、い、せ、ん。この、世、は、い、あ、や、ま、ち
お、ほ、く、財、を、う、ら、い、病、を、ま、う、く、百、薬、の、長、と、い
い、へ、ど、薬、の、病、酒、より、こ、そ、お、こ、れ、う、れ、へ、を、わ
ま、る、と、い、へ、ど、お、い、う、ら、人、ぞ、過、ぎ、に、う、ら、を、も、

思い出でなくめる。ほのせハ人の智恵をうーか
い善根をやくこと大のごとくして悪をまーよ
ろづの戒を破りて地獄におつべー。酒をとりに
人よのませたる人五百生う間をまきものに生
ことこそ佛に説きたまふあれ。かくうとまーと
およものなれどあつううまてかこきをわ
もあつべー。月の夜雪のあーた。たのもともても
心のとわかま物語して。盛出ーううろづの魚
をぞうわごさなりつれ。ある日たまひの外
よ友のふきてとりおこさひたるも。むるをむ。

あはくーかぬあつりのみまのうらぶあはく
だものみきあぶよきやうなるけさひーとさ
いだそれういとも。みせばさあつてたよて
物いりあぶてつだてあきぶらうさーむい
おほくのさたるいとたうーたびのかりや野山
あぶらて、あつうふ何ぶなまをいひてまばの上
よてのみらもたうーい。むむ人のまひ
られてまうーのみたるもい。よき人のせ
り見きて今いさうへもくあーたごのたまは
せらるもうけー。逆づもほーまき人の上戸ま。

いしとあれぬ。又うれい。せいへぞ、上戸
かたしつみゆることもの。あひくら
びれて、あさいたる。おまのひきあけたるに、
まどいて、ほれたる。かほあぐら、ほそきもとり、
さし物もきあぐら、つぎもらひきしりひ
てよぐら、かいざりもがらのうしろ、毛おひた
る。ほそはぎのほど、おしきつぎ。

美

鎌倉中書王とて、御鞠ありたるに、あめありては、
いまど、庭のかろざりくれが、いふせん、とさ
たありたるに、佐々木隠岐入道のこぎりれくづ

を、車につみて、おほく、舞りたれが、一庭よ志
かれて、泥土のさつ、いさなり。とりたけ
ん、用意ありがたしと、人感どあへり。け事を、
あるもの、語りあがり、吉田中納言に、かき
きまらごの、用意や、あがりたる、のたふいた
り、かぞ、はぐり、かりき、いみどと思ひ、これ
こぎり、のく、はぐり、こと、やうのこと、あり。庭
の儀を、奉り、とる、人、かき、きまら、ご、まら、く、ら、
故、実、あり、とら。

美

或、それ、さ、ぐら、ひ、ども、内侍、所の、御、神樂、を、みて、人

よかじつとて、寶劔をば其くごもらたまへるな
ど、しつとて、うらむる女房のまうに、別殿の
行幸よ、晝湯座の御劔まで、そあれと、まのい
やうにいしいり、心よくかりき。その人あつて
典侍ありけるとうわ。

星

相模守時頼の母ハ、松下禪庵とぞ申さる。守をい
れ申さる。事ありうらふ、まへにけたるあつて、
うドのやぶれづりを、禪庵まづうらふ。か
きりまへ、つ、はくれまじ、せうと、城分義
景、うらのけいめ、うらひ、うらぶ、給はりて、

ふまが、男には、せいのん。さやうの事に心得
し、若しいと、申され、其男、尾の細工に、よ
もま、侍らどとて、一問づ、は、は、は、を
義景、みまを、けり、かへい、せん、は、は、は、を
く、い、へ、ま、ま、い、も、み、ら、ら、ら、と、か、さ、さ、
て、や、せん、れ、が、尾、も、は、は、と、は、り、か、い、ん
と、た、も、へ、と、も、い、げ、う、り、い、ま、ま、と、か、く、て、あ、る
べきあり。物ハ、破れたる、あ、げ、り、を、修理して、用
事ぞと、ま、ま、人、ま、み、あ、は、せ、て、心、つ、い、ん、た
め、あ、り、と、申、さ、れ、ま、い、と、あ、り、か、く、う、ら、め、世

を治むる道、儉約をもとむ。女性あれども、聖人の心よかまへり。天下をたもつほどの人を、ふよてもたれらる、まこととにたびともち、あしごりけりともぞ。

○

城陸奥守泰盛ハ、さうまき馬棄るけり。さといき出させらるよ、是をとりつて、さきみそゆらちと、さゆをさみて、是のさめる馬をりとして、鞍をけきかへさせけり。まゝ、是をのべて、さきみそはけあてぬれ、是のさぶくして、あやまらあるべしとて、のらごりさめ、道をさうらごりて入るべし。

○

りおそれるんや。よろづの道此人たとい、不堪なりといへども、堪能の非家此人よあらぶ時、必まざることをい、なゆみなくつゝ、さみて、かろくさぬと、いとよ自由なるもの、いとわづぬるもの。能く能く地のこにあ、は、おほくの振舞心づいも、おろくにしつゝ、さめるハ、得の奉るなり、たぐみよして、ほしきまゝなるハ、失の奉るなり。

○

或者、子を法師となして、学問して、因果の理をも知り、説経などして、世をさるたづきとも、せよと

いひければ、きこへぬまゝに、説経師よるゝんた
 めよ、先つ馬に系あつていふの。輿車もぬおの導
 昨は請せられん時、馬まごむうへよ、たせたくん
 も、もゝおのりまて、おらさんハ、心うかるべしと思
 ひけり。次に、佛事の後、酒まごむうへことあり
 んよ、法師の、誓下に能きま、檀那、まをまごくた
 もあべしとて、早寄とあつことを、あつていふの。
 うたのまご、やしきま、いひよ入れば、いふよ、よ
 くし、たぐおぼえて、たし、まみたるほどに、説経な
 らよべき、いまなくて、年よりに、まのけ、法師のみ

よもあつて、世間の人、まべてこのことあり、わう
 き、様ハ、諸事につけて、力をたて、大なるみちをも
 成し、能きもつぎ、学問をもせんと、おまいたく
 あつて、まごこと、まご、心もかけあつて、世をのぞ
 ろに思ひて、うらお、たたりつゝ、まづさあ、あつ
 たる、目のあれこと、にのみまごして、月日をたぐ
 れば、ことごとく、まご事なぐして、男ハ老ぬつひよ、
 物のよまにもなつて、思ひしやうに、力をもちた
 ぎ。くゆれども、さわかへし、く、齢あつねば、は
 りて、坂をくだる輪の、まごに、たよりへゆくさ

ん。日をさくぬことあれば、西山の事ハ、つへめて
又こそ、たもひた、めと、思ふ故に、一時の懈怠も
なほち、一生の懈怠となる。是をたをるべし。一事
を、必ざるさんとおもはざれば、他の事ハ、破るをも
いふむべし。人の朝をも、恥べし。業事ハ
かへど、一の大事なるべし。人あま
考へて、中まで、あるもの、まをわのさくき、まをほ
のさくき、あど、いふ事あり。さくき、あど、いふ事、此こと
をつたへ、志りたりと、かへり、さくき、あど、いふ事、登壇法師、そ
の堂に、侍り、さくき、あど、いふ事、雨のふり、さくき、あど、いふ事、

かき、やある、か、た、ま、へ、か、の、さ、く、き、の、こ、と、あ、ら、う
い、ま、さ、く、き、の、べ、い、ド、ア、の、が、り、尋、ひ、ま、つ、ら、ん、と、
い、い、さ、く、き、を、あ、ま、り、に、も、の、さ、く、き、が、一、雨、や、み、て、こ
そ、と、人、の、い、い、さ、く、き、ハ、無、下、れ、事、を、も、仰、き、さ、く、き、
物、ら、れ、人、の、命、ハ、雨、の、さ、く、き、を、も、ま、つ、も、の、う、は、
我、も、志、ふ、い、ド、ア、も、う、せ、さ、く、き、た、づ、み、さ、く、き、て、ん、や
と、て、は、一、り、出、て、ゆ、き、つ、て、な、ら、い、侍、り、に、さ、く、き、と、
ゆ、つ、た、へ、さ、く、き、を、ゆ、き、さ、く、き、あり、が、さ、く、き、お、ぼ、ゆ
れ、敏、き、と、さ、く、き、ハ、則、功、あり、と、ぞ、論、語、と、い、ふ、文、も、も、
侍、ら、る、こ、の、さ、く、き、を、い、ぶ、さ、く、き、一、く、思、い、さ、く、き、

夏

うに、一大事因縁をぞ、おもはぶらうりける。

今日、いふ事をとらふと思へど、あしぬらさぎ、先
づ出来てまぎれく、まう人をささはりあて、
たのめぬ人のきたり。たのみたるかゝることた
らいて、思ひよぬ道は、つひにかまひぬ。さづ
は、うりつる事、こゝろをくつ、おもひつる
い、いと心づかる。さしに、いふまじ、ゆへまはかひと思
いつるま、さる事、うらもかゝくのづと。一
生の間も、又さうかゝるものあま、みかた、
いゆくとおもふ、たのづか、はぬ事、

夏

あれば、いふくもの、定めかゝ。不定とこゝろ
えぬらのみ、まこととて、たづねは、さ。
夜より、りて、物のほえ、あへり、く、いと口を。
あはれ物の、き、かざり、色、よ、も、よるの、こ、を、め
でた、う、れ、い、い、こ、を、ぎ、おも、を、げ、た、る、姿、を、
も、あり、あ、ん、よ、る、い、ま、さ、か、よ、は、さ、わ、る、あ、る、さ
う、ぞ、く、い、と、う、人、の、け、く、き、も、よ、る、の、ほ、ろ、げ、ぞ、
よ、き、い、よ、く、物、い、いた、る、あ、も、く、く、て、き、い、た、る、
用意、あ、る、心、よ、く、一、旬、い、ち、物、の、ね、も、只、よ、る、ぞ、い、
とき、は、め、で、た、き、さ、り、て、こ、と、あ、ら、う、い、ち、き、て、夜、う

ちふくて、まぬれる人の、きこげあるさま。たう、
いとよ。そのきこげ、心とてめてみる人。時を
もろぬ物あれが、こというちとけぬべきを、り
あーぞ、げをれなくひきつくろはるほき。まき
男の、はられてゆむる。女も、夜まらほどよ、まべ
りつ、鏡よりて、かほまどつらういて、あること
だ。けき。

●

くき人の人を、はつめて、其智を、おれりと思は
ん。よあ。つたなき人の、暮うつ
事げ、めよ。とくたきみるさ、か。き人の、

けきにおろるるを、みて、おのれが智におろば
どとてめて、よろづ此道のたきみ、我道を、人の
ま。やをみて、おのれを、れりと思はん。こ
と、大なるあやまりあるべ。文字の法師、暗證の
禪師、たひよはうりて、おのれよ、まらむと思へ
る。ともにあ。おのれが境界に、あ。やる物
を、あ。あ。べ。是非も、べ。

●

達人の、人をみる眼、まら。もあやまる。お、ある
べ。た。た。或人の、おに、まら。まら。かま
へい。て、人を、けらる事、あ。ん、まら。ほ。誠

新文孝義書 三三卷
と思ひていふまゝに、はうらうらう人あり。あまや
にふらう信をおこして、釋さづはく、虚言を
心得る人あり。又何ともおもはせて、心ま
けぬ人あり。又いふ、うらぼつらなくおぼえて、
たのむもあつた。ためまぢもあつて、案じあ
る人あり。又まことく、おぼえねども、人のい
ふ事なれが、やもあんとて、やみぬる人もあり。
又さかぐに推し心得たるより、てがこげ
うらうらうづき、ほゝきみてあつれど、つやくし
らぬ人あり。又推し出して、あはれさるめりと、思

いさぐ、釋あやまりもこそあれと、あやむ人
あり。又ことあるやうも、なうらうめと、まをうら
て、いふ人あり。また心得たれども、おしりとも
いさぐ、おぼつらなくあつた。かくの事なく、お
らぬ人と、同じやうも、あつた。又いさぐこ
との本意をば、めより心得て、まこもあつた。
うら、かまへ出たる人と、おぼえぬ人もあり。ち
かゝるを、あはゆる人あり。愚者の中れた、おぼれだ
よ、おしりたる人の前よ、て、此さかぐのえたる
雨、詞よても、かほよても、かかれなく、おしられぬべ

一。まてあきううあうん人のまどへらまら
をみんことたぶざろのうへた物をみんごご
と。但かやうのたけはうりまて、佛法までをか
むくへいふべきまのあうむ。

⑤

徳大寺君大臣殿、檢非違使の別當の時、中門よて、
使廳の評定おこなはれけるほどに、官人章兼が
牛はなれて、廳のうらへ入て、大理の地にはまゆ
うのうへまのぼりて、まれうらかみて、ふりうり
くめ。たもき、恠異なりとて、牛を、陰陽師のももへ
つうはまべきま、各申さるるを、父の相國、き、給

⑥

いて、牛の分別あり。是あれば、いづくへらのぼり
ざん。冠弱の官人たもく、出はの、微牛をま
まべきやうなるとて、牛をま、まにかへて、ふ
たりけるた、みまを、かへられまら。あへて、出
事あうりまるとるん。あや、みまをみて、あや、ま
ざるとま、あや、み、うへりて、やづるといへり。
龜山殿たてられんとて、地をひらけらま、大き
るうらまは、数もま、ごりあつまりたる塚
ありまら。此所、神なりといいて、このま、を
中まれば、いづ、考べきと、勅問ありまらに、ある

くより、この地を志せしむ、物あつてせうなく、堀
きてられがごとく、みなく、やれくま、このた
とび一入、王土よをくし、虫、皇居をたてられんよ、
何のたしりをもくもむき、鬼神、邪あり。とむ
べうらび。只みを掘もつべうらび、かされたり、れ
バ、塚をくづして、蛇をバ、大井川よあづけてけり。
さうにたし、あつりけり。

竟

人の田を、論じらるものうたへよまけて、ねたきに
それ田をかりて、それとて、人をつうけし、くまよ、
先づみちをがうの、田をさへ、かりもてゆくと、是

ハ論じたまふ、あはあ、いふよ、かくつといひ
それバ、かるものども、や、死とて、も、かるべきこと
あり、あ、それバ、僻事せん、とて、まかる、若る、れ、バ、い
づくを、か、か、と、ぞ、いひ、くる。こと、さ、り、い
とお、う、かり、さ、り。

皇

萬の事ハ、たのむべうらび。おろく、ある人ハ、あ、う
く、ものを、たのむ、ゆ、あ、い、う、み、い、くる、こと、あり。
い、さ、ほ、い、あり、と、て、たのむ、べうらび。こ、は、き、もの、
先、ほ、ろ、ぶ。賤、お、ほ、し、と、て、たのむ、べうらび。時、の、ま
に、失、い、や、む。オ、あり、と、て、たのむ、べうらび。孔子

也。時よあはれども。徳ありとて、たのむべからず。顔面
も、不幸なりき。君の寵をも頼むべからず。誅をう
くる事をもみやうあり。奴をさぐりて、たのむ
べからず。まじきはる事あり。人の志をも頼む
べからず。必やむ。約をも、たのむべからず。信ある
事をもくち。力をも、人をもたのむべからず。是なる時
は、よろこび、非なるとき、さうらみ。左君いろけ
れば、さばらば。前後とほろれば、あそがらば。せば
き時、いげらぐ。心を用ふる事、さうらみ
て、まじき。まじき、物よとらひ、あそむて、

ぶら。ゆりく。てやほらうなる。ゆり、一毛も損せ
ど、人の天地の靈なり。天地、かぎる。ある。人の
性、なんぞことある。寛大にして、まじき。さうらみ
とき、ハ喜怒、是にさばらば。て、物のためにさづ
らほらば。



想夫、意といふ。樂ハ、女をとこをさうらむ。故の、名よ
ハ、あらば。もとを相府連、文字のかうらむ。晋
の王、侯、大臣とて、家に、ほらむをさうらむ。て、愛を
とき、ハ樂なり。是より、大臣を連府といふ。廻忽も、
廻鶻なり。廻鶻、國とて、えびもの、こほり國あり。其

夷漢は伏してのちに、来りて、たのれが國のぶく
を、奏せしあり。

後鳥羽院の時、信濃前司行長、稽古のほまれ者
けつ、樂府の時論義の番にめされて、七徳の舞
を、ふらふらとしたりし、五徳冠者と、異名を
つきよるるを、心うきことなり。て、学問をもちて、
遁世したりるるを、慈鎮和尚、一巻あるものを、
下部までも、めしおきて、不便とせざるにけ
ま、信濃入道、扶持したるいなり。け、新長入
道、平家物語をつらりて、生佛といひける、盲目よ

を、一へて、かづくせなり。さて、心門の事を、こと
ゆ、くかけり。九郎判官の事、くは、くきり
て、かきのせり。蒲冠者の事、くは、くきり
るるや、おほくの事どもを、ちるしむせり。武士
の事、弓馬の事ども、生佛、系玉のものとして、武士に
といきりて、かせけり。彼生佛が、生れつきのこ
急を、今の聖賢法師が、まらびたるあり。

もべて、人々、無智無識なるべきものなり。ある人
の子に、みざるなど、あかぬが、父のあま、人
とものつらして、史書の文を、いきたりし。

くハ、同えーのども、尊者のまへへて、いへんやと
もと、ねほえーあり。

●

又ある人のもとまで、聖賢法師の物語をきか
とて、いはをせしよせしに、ぢうのいよつおち
たりーうづつらりてつけよといよある男の
中にあーかゝるとみゆるが、あるきいさくの柄
ありやまど、つめをみれば、つめをおほたり。い
はまどひくにこそめく、法師のびは、其さよ
も及ぶぬことあり。道に心得るより、うやと、か
たはういさかりき、いさくの柄を、いものまを

やいいてよかぬものよとぞある人仰せし
。いさく人の事もよくみえ、まらくみ
ゆるあり。

●

萬のとが、あつどと思はぶ、何事もまことあり
て、人をいさくや、詞もなかつたよ
。あつど。男女老女、みまると人こそよけれど、こ
とよまのく、かゝらよき人のうらな、きん、さ
れが、く、思いつくものあり。葉のさか、な
またる、こかに、上子めき、あえらけ、きーて、人
をあい、うらまよるにあり。

人の物をといたるに、きこむもあつてありの
 まゝにいはんことをかまへども、おぼえまゝにほ
 やうにうへりごとく、たふよかぬことをあや
 りしる事も、程とせよと思ひてやとあつて。又
 まことにきこぬ人も、あつてあつて。うら
 よ、いひきこせたくん、おとあつて、おんえあ
 人のいひまごき、あつてあつて、おんえあ
 まゝに、さて、其人の事、あつてあつて、あ
 り、いひやりたれ、いひあつてあつて、あ
 だゝ返し、いひよやうこそ、いひきこまれ、せよ

●

りぬることをも、あつてあつて、あつてあ
 もあれ、おぼつたな、かゝぬやうに、つげや
 らん、あゝ、かゝる、きこつた、か、やうの事、物
 れぬ人の、あつてあつて。

●

主ある家、あつてあつて、あつてあつて、あ
 事、あつてあつて、あつてあつて、あつてあ
 けり、狐ふくろふやうの物も、人げせ、れね
 不えが、あつてあつて、あつてあつて、あ
 ぬか、あつてあつて、あつてあつて、あ
 ちき、故、あつてあつて、あつてあつて、あ

ふかきもあまらうばうつらま。虚室よ
く物をいつ。我らが心よ念くのほきま。いま
りうかぶも心といふもの。あまきうやあんな心い
ぬ。あまらうば胸のうらに。そこばくのこと
ハ、入きたらうま。

⑤

丹波よ、出雲といふ所あり。大社をうつてめで
たぐつられり。まごのまが。とや、出づるあま
れ。秋のころ、聖海上人、まほらも人あま。い
ひて、いざたまへ。出雲をうみよ、かいはらひめ
せんよ。て、ごもて、いきたらよ、名をうみて、ゆ

しく信おろたり。清前なる、獅子、こまぬをむ
きて、うろまに、たらり、れが、上人いみど
く感して、あなめでたや。け獅子の、たちやういと
めづら。ふらき故あんと、涙ぐみて、いり、殿
ば、殊勝の事、はらんど、まびや。喜下あり
といへば、おのく、あやみて、まこと、他よこと
なり。都のつと、いかに、なると、いかに、上人、たゆ
か、うらて、おと、あま、物、まらぬ、まき、か、あ、た
る、神官をよびて、此御社の獅子の、たてられ、ち、
定めて、あま、いある、こと、よ、待、ら、ちと、あ、ば、

といふれれば、事よひ、せうあきつゝは、
どもの、けりくる、奇恠よ、こと、やとて、さう、より
て、も、あき、ほ、い、て、い、よ、く、れ、ば、上、人、の、感、涙、い、つ、づ
ら、な、り、よ、け、り。

○

ハ、つ、な、り、一、年、父、よ、と、い、て、い、は、く、佛、い、う、ま
る、もの、う、い、ら、ん、と、い、ふ。父、が、い、は、く、佛、よ、人
の、な、り、と、い、ふ、と、又、い、ふ。人、は、何、と、い、て、佛、よ、
た、り、い、や、う、ん、と、い、ふ。又、佛、れ、を、い、へ、よ、り、て、お
る、り、と、こ、た、ふ。又、同、い、教、へ、い、け、る、ほ、と、け、を、
何、が、教、へ、い、い、る、と、又、こ、た、ふ。それ、も、又、さ、ま、の

成りこまふも
現在なれども
を成りたあひ
一といをぞい
かをせず。早う
より、写一あや
より、つらまも
や、あ、う、ん、

佛の、を、い、へ、よ、り、て、成、り、た、ま、あ、り、と、又、い、ふ。
其、を、い、へ、ほ、め、い、け、る、佛、の、い、つ、る、佛、
より、い、ひ、る、と、い、ふ、と、き、父、空、より、や、り、ん、
お、より、や、り、き、ん、と、い、ひ、て、い、う、同、い、つ、め、
れ、て、え、こ、い、ん、ぎ、な、り、侍、り、つ、と、諸、人、よ、か、り、て
興、ド、き。

和文教科書二之卷終

明治十九年四月九日版權免許
同年同月十三日版權讓受御届
同年同月 出版
第一帳定價金五拾錢
第二帳定價金五拾錢

編輯人

下田 歌子

東京四谷尾張町九番地

出版人

平尾 錦藏

東京四谷尾張町九番地

製本兼
發兌元

中央堂

宮川 保全

東京神田猿樂町三丁目一番地

發兌元

十一堂

明石 範貞

東京京橋南銅町二丁目三番地



賣捌元

大阪心齋橋通北久寶寺町

三木 佐助

